



IoTインターホンで再配達解消



荷物と居住者のマッチングを広げる

IoTインターネット用端末が対応できない「荷物受け取り」の不足を解消し、再配達の削減が求められる。特に問題視されているのは、宅配ボックスに入らない荷物や、ドライバーの人数不足による配達遅延などだ。関係各方面が改善のための取組を進めている。その中で、IoTインターネット用端末の活用が注目されている。中でも、東武東上線沿線の「住まうほん」が、IoTインターネット用端末を活用し、再配達を削減している。関係各方面が改善のための取組を進めている。その中で、IoTインターネット用端末の活用が注目されている。中でも、東武東上線沿線の「住まうほん」が、IoTインターネット用端末を活用し、再配達を削減している。

テフットライト(東京)が、相川(念)代表取締役が展開しているマンション向けのIoTモノのインターネット「住まうほん」を採用している。1月までに大田区(念)の「住まうほん」が導入を決定しており、約500戸で採用された。相代表取締役は「配達される荷物と住居者のマッチングを拡大したい」と語る。



「住まうほん」は、すでにマンション向けに展開している。2018年12月から利用開始。2019年1月からは再配達削減率(利用戸数)を拡大する狙いがある。住居者のIoTシステムは近年、多様な機能が追加されている。その中でも、IoTインターネット用端末の活用が注目されている。中でも、東武東上線沿線の「住まうほん」が、IoTインターネット用端末を活用し、再配達を削減している。